

(練習スケジュールにあわせて掲載しているので、この先、曲順と一致しないことがあります)

【バッハのコラール】

バッハは当時の習慣にならい、コラールの旋律とテキストのほとんどを既存のものからとりました。そして歌詞に合わせて旋律、和声づけに彼の技法を凝らしました。その書法を原曲を同じくする複数のコラールから探ってみます。例にとったのはメルヒオール・ヴルピウス(c1570-1615) 曲、ストックマン詩 (賛美歌「イエスの悩みと痛みと死」-1633 年作) による3 曲です。

原曲の旋律はつぎのようになっています。

M. Vulpius: Seele, mach dich heilig auf (1609)



- a. [14] (20) 「思い返すことをしないペテロは」 (原詩第 10 節)
- b. [28] (56) 「彼は、すべてのことに心を配った」 (原詩第 12 節)
- c. [32] (60) 「イエスよ、あなたはいちど亡くなりましたが」 (原詩第 34 節)

まず冒頭の 2 小節を比べてみます。

a.では、主を裏切ってしまったペテロの悲しみが嬰へ短調で描かれ、かつ 2 小節目の屈折終止 (Y の和音) がそれをさらに強められています。身を切るような痛みとともに、ペテロの心情を思う人々のため息が聞こえるようです。

いっぽう b.は、調性をイ長調であること、第 2 小節で Sop.の d を dis にしたこと、Alt.が ♯で滑らかに進行することから、母と弟子を思いやるイエスのやさしさが浮き彫りになっています。

c.は永遠の眠りについたイエスにやさしく語りかける子守り歌です。低い音域 (ニ長調) で静かに歌われ、Ten.の音型はゆりかごであやすかのように ♯♯ 揺れています。

[14] に現れる特徴的な表現

さらに[14] についてもう少し分析しましょう。

7-8 小節「さめざめと泣いた」では、Bas.の半音階的上行、内声の 8 分音符の動き、半終止の和音がペテロの嘆きを描いています。

第 9 小節の各声部には、「イエスよ」と訴える気持ちが 8 分音符の動きで描かれ、

第 13 小節の「悪いこと」は和音の邪悪な響きに、

第 15-16 小節の「揺り動かしてください」は 16 分音符の動きに表わされています。